NPO法人九州バイオマスフォーラム共催事業

ドイツ人講師による「バイオエネルギー村」 報告講演会

今こそ考えよう
農村資源で地域再生エネルギー

～ドイツのバイオエネルギー村プロジェクトに学ぶ～

3会場にて開催！！ 詳細は裏面

4/25(水)高森町

4/26(木)大津町・菊池市

バイオエネルギー村プロジェクトリーダー
ハイコ・ローエンゲル氏

【講演内容】

- バイオエネルギー村プロジェクトとは
- バイオエネルギー村の誕生から広がりまで
- ドイツでも最初からうまくいくわけではない
  ～住民意識の変化について～
- プロジェクトの障壁と成功の鍵
- 日本の農村における可能性

【講師プロフィール】

【講師】　ハイコ・ローエンゲル氏
バールリッセンバイオエネルギー村プロジェクト役員。バールリッセン集落の住民で元銀行マン。住民の関心が薄れた時にも、このプロジェクトの意義を信じて推進してきた。プロジェクトを通じて、バイオガスプラントメーカーの経営コンサルも手がけるように。再生可能なエネルギーの利用を目指す農村集落のコンサルティングを主な業務とするニューエナジー社を設立。代表取締役。成人教育やネットワーク作りも手がける。

大津　愛梨氏

【コーディネーター兼通訳】　大津　愛梨氏
ＮＰＯ法人九州バイオマスフォーラム副理事長
ミュンヘン工科大学大学院林学課修了。
2002年10月帰国後、夫の郷里・阿蘇へ移り、就農した夫を手伝う。
今年１月にドイツ視察研修のコーディネートを行った。

■お問合せ先■　NPO法人九州バイオマスフォーラム
熊本県阿蘇市一の宮町宮地5816
TEL　050-3305-6577　FAX　0967-22-1014
E-mail　kbf@aso.ne.jp

【バイオエネルギー村とは？】

ドイツで初めて電気と熱を自給する農村の集落が誕生したのは8年前のこと。原料は集落内で発生する**家畜の糞尿**や規格外の**穀物、木のチップ**などです。「ウランと原油は海外にある、家畜糞尿や木は村内にある」をモットーに、地域にある資源を使って地域で必要な電気と熱を生み出すプロジェクトが「バイオエネルギー村」なのです。最初のバイオエネルギー村が成功したことで一気に期待が高まり、ドイツ国内で既に80近い農村の集落がエネルギーの自給をしています。プロジェクト成功の鍵は何か。広がりの鍵は何か。福島原発での事故から1年。国内にある資源を活かしたエネルギー供給について考える時が来ています。バイオエネルギー村プロジェクトを推進してきた住民のリーダーがこれまでの経験を通じて、農村でこそエネルギーの自給が可能であることをお話して頂きます。

日　時	詳　細
4月25日（水） **18時半～21時** **開催地：高森町**	【主　催】　NPO法人阿蘇フォークスクール 【参加費】　参加費　無料 講演会後に懇親会有り　費用1500円（飲み物代別） 【場　所】　阿蘇フォークスクール内コミュニティーカフェ木の珈舎 熊本県阿蘇郡高森町上色見1390-1 【締切り】　4月23日まで 【お問合せ】NPO法人阿蘇フォークスクール Tel/fax　0967-62-0027 E-mail　aso-folkschool@cotton.ocn.ne.jp
4月26日（木） **14時～** **開催地：大津町**	【主　催】　おおづ森の守り人 おおづ自然エネルギー・ネットワーク 【参加費】　無料 【場　所】　大津町文化ホール中会議室 熊本県菊池郡大津町大字引水62 【お問合せ】おおづ森の守り人　担当：鈴木 Tel　050-3320-7744
4月26日（木） **19時～** **開催地：菊池市**	【主　催】　NPO法人きらり水源村 【参加費】　500円 【場　所】　きくちふるさと水源交流館 熊本県菊池市原1600（元菊池東中学校） 【お問合せ】NPO法人きらり水源村　担当：松崎 TEL：0968-23-4011

参加申込書

■このままFAXでお送りいただくか、メールにてお申込みください。
■ご記入いただきました個人情報は、セミナーの運営にのみ利用いたします。

FAX：0967-22-1014　　**NPO法人九州バイオマスフォーラム宛**

E-mail　kbf@aso.ne.jp

ご氏名（ふりがな）			
会社名・団体名			
住所	〒		
TEL		FAX	
携帯			
E-mail			